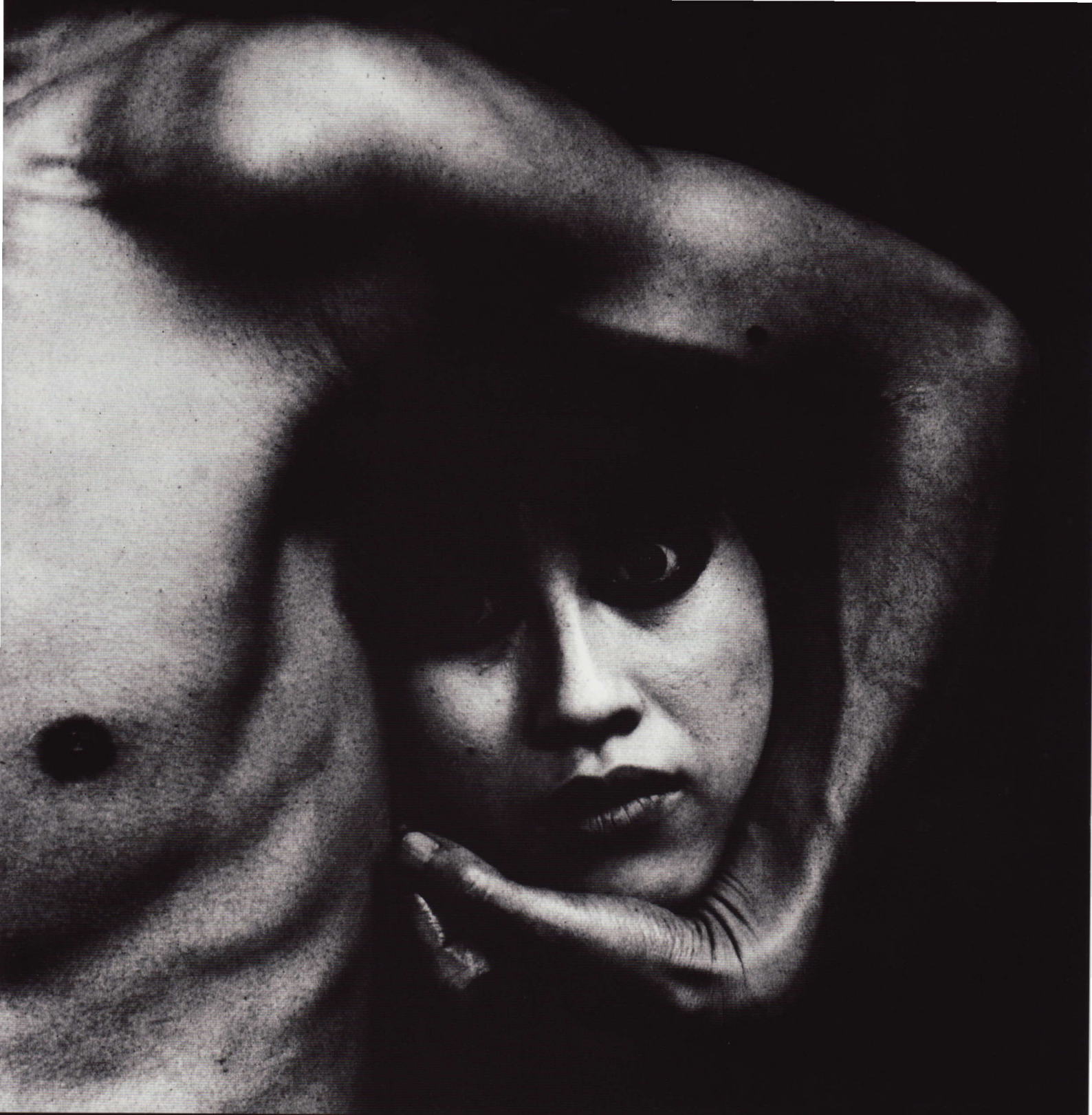




細江英公の写真 1950-2000 EIKOH HOSOE: Photographs

2000年12月12日(火) — 2001年1月28日(日)

■開館時間: 午前9時—午後5時(入館は4時30分まで) ■休館日: 12月18日(月), 25日(月), 12月29日(金)~1月3日(水), 1月9日(火), 15日(月), 22日(月)

渋谷区立松濤美術館 The Shoto Museum of Art

主催=渋谷区立松濤美術館/共同通信社

協賛=日本油脂株式会社/富士写真フイルム株式会社/フォト・ギャラリー・インターナショナル

■入館料: 一般300(240)円/小・中学生100(80)円

* ()内は10人以上の団体料金/65歳以上の方および障害者の方は無料/第2, 第4土曜日は小・中学生無料

おとこと女 作品20, 1960年 ©EIKOH HOSOE



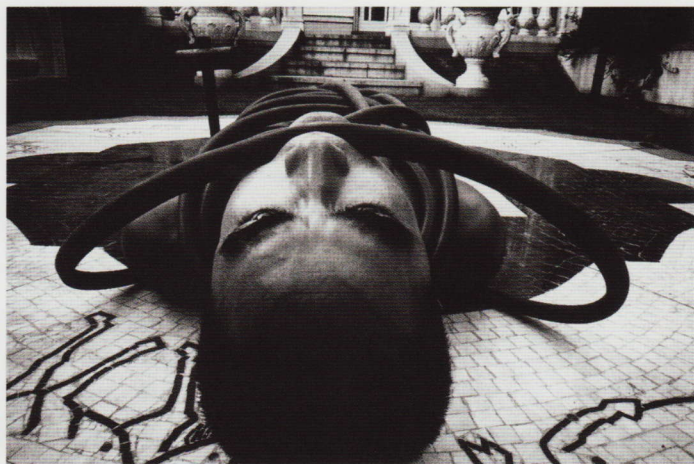
抱擁 作品28, 1969年



ガウディの宇宙 サグラダ・ファミリア I, 1977年



ルナ・ロッサ 21世紀へのおくりもの/20世紀からのおくりもの, 1996年



薔薇刑 作品6, 1961年



鎌鼬 作品37, 1965年

©EIKOH HOSOE



シモン・私風景 隅田川吾嬬橋, 1971年



森山大道と《薔薇刑 作品10》, 2000年

細江英公の写真1950-2000 EIKOH HOSOE: Photographs

21世紀を迎えるにあたり、「細江英公の写真1950-2000」を開催いたします。

細江英公は1933年米沢市に生まれ、幼少期より東京で育ちました。半世紀にわたって画期的な作品を生み出し、国際的に評価されている戦後日本を代表する写真家です。彼は、写真を「被写体と写真家の関係の芸術である」と考え、「記録」と「表現」が「メビウスの帯のごとく表裏一体をなす変幻自在のもの」と定義しています。

舞踏家土方巽を撮って鮮烈な肉体を提示した『おとこ女』(1961)、小説家三島由紀夫を被写体にバロク的な耽美空間を構築した『薔薇刑』(1963)、日本の原風景とその亀裂を描き出した土方とのコラボレーション『鎌鼬』(1969)等の作品集で、細江は比類ない写真表現の世界を打ち立てました。さらにアメリカを中心に発表の場を海外にも広げ、ワークショップを初めとする写真の教育、普及にも大きな業績を挙げています。近年はアントニオ・ガウディの建築を独自にとらえた『ガウディの宇宙』(1984)、世紀末の危機感を世に問う『ルナ・ロッサ』(2000)を発表し、新たな表現世界を開示しています。

本展では、これらの代表作に新作を加え、ヴィンテージプリントを含む約200点で、写真家・細江英公の芳醇な作品世界を回顧します。この展覧会が、映像の世紀・20世紀の終りに写真について再考する機会となり、日本の戦後の精神の軌跡を考察する契機のひとつともなるよう願っています。

- 講演会
「21世紀へのおくりもの」
講師＝細江英公氏(写真家)
12月24日(日) 午後2時より
- 「細江英公における舞踏」
出演＝元藤澤子氏(舞踏家)
1月14日(日) 午後2時より
- 美術映画会
「エマク・バキア」(マン・レイ作, 1927年)
＋細江英公関連ビデオ
12月23日(土) 午後1時より
「サイコロ城の秘密」(マン・レイ作, 1929年)
＋細江英公関連ビデオ
1月6日(土) 午後2時より
- ギャラリートーク
12月20日(木) 午後2時より 当館学芸員
- 美術相談
12月23日(土) 午後2時より
講師＝宮田翁輔(油彩), 新出紀久雄(水彩)
1月27日(土) 午後2時より
講師＝茂登山東一郎(油彩), 北尾和子(水彩)

渋谷区立松濤美術館 渋谷区松濤2-14-14
Tel. 03-3465-9421



- 案内図: JR[渋谷]駅下車徒歩15分
京王井の頭線[神泉]駅下車徒歩5分